



月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

塗りつぶしの日 は 休館 です。

5月

『人よ、花よ、』 今村翔吾/朝日新聞出版/F17 (上下巻 2 部構成)

軍神と崇められる楠木正成を父に持つ正行は、戦なき世を求めて、北朝に降る決意を固める。それは、楠木家こそ挽回の鍵だと頼みにしている南朝を滅亡に向かわせることに他ならないのだが…。『朝日新聞』連載を単行本化。

大津市在住の作家、今村翔吾氏の作品が刊行されました。ぜひご一読ください。



Pick Up!

『毎日読みます』

ファンボーム/集英社/019 77

忙しい日々の中で、どうすればもっと本を読めるだろうか？どんな本を読めばいいだろうか？「ようこそ、ヒュナム洞書店へ」の著者が、具体的な本や読書法を日常の悩みや喜びとともに綴る。

『日本の世界遺産をめぐる旅』

朝日新聞出版/291 77

日本の世界遺産全制覇を目指してみよう！世界遺産の全体像を俯瞰した「遺産まるわかり MAP」、実際に旅するとき役立つ詳細 MAP、遺産の昔の姿がわかる復元イラストなどを収録。

『科で見分けて楽しむ雑草観察図鑑』

瀬尾一樹/山と溪谷社/470.3 ㌔

「キク科は花がたくさん集まっている」など、科の共通の特徴を知ること、種類が調べやすくなるように作った図鑑。街で見られる植物を中心に、種を見分ける上で重要な観察ポイントを押さえた解説付きで 316 種を掲載。

『梅干しは万能調味料』

ワタナベマキ/主婦と生活社/596.3 ㌔

和食から中華、洋風、エスニックまで、多彩な料理に展開できる梅干し。料理家のワタナベマキが、とっておきの梅料理 60 品を紹介。自家製の梅干しづくりについて、Q&A つきでていねいに解説。

『黒部源流山小屋料理人』

やまとけいこ/山と溪谷社/786.1 ㌔

北アルプス・黒部源流の山小屋、薬師沢小屋で働くイラストレーター・やまとけいこが、山小屋料理人が抱える苦悩と喜びを、イラストを交えユーモラスに綴る。『山と溪谷』連載に書き下ろしを加え書籍化。

『百一歳。終着駅のその先へ』

佐藤愛子/中央公論新社/914.6 ㌔

百歳を迎えての日常と、今の思いとは？佐藤愛子の 90 代後半から 2024 年までの『婦人公論』でのインタビューと、単行本未収録のエッセイを総ざらい。変わらない歯切れよさで、世相と日常を語り尽くす。

『なぜ人は自分を責めてしまうのか』

信田さよ子/筑摩書房/146.8 ㌔

「すべて自分が悪い」と自分の存在を否定することで、世界の合理性を獲得する自責感。当事者の言葉を辞書として、自責感や母と娘、共依存、育児といったものにまつわる問題を考える。オンラインセミナーをもとに書籍化。

『経済学よみとき図鑑』

川野祐司〈監修〉/ナツメ社/331 ㌔

家計は、企業や政府とどんな関係にある？円からドルに交換する比率は何で決まる？デジタル通貨とは？誰もが日常で抱く素朴な疑問を起点として、経済学の基礎的テーマを、図表とともにわかりやすく解説する。

『老いの思考法』

山極寿一/文藝春秋/489.9 ㌔

動物は、基本的に繁殖能力がなくなったら死ぬので、長い老年期がない。人生後半戦をどう生きるかというのは、人間だけがもつ問いである。人生の老年期をどう捉え直したらいいのか、老いをめぐる新しい思考法を提示する。

『私たちは何を捨てているのか』

井出留美/筑摩書房/611.3 ㌔

日本では年間 4 兆円失われていると言われる食品ロス。地球規模の事象と複雑に絡まった因果関係を、牛乳、コメ、卵など身近な食べ物をめぐる話題から賞味期限と消費期限、ごみ問題まで、多数の事例を挙げながら丁寧に解説する。

『「分かりやすい説明」の技術』

藤沢晃治/講談社/809.2 ㌔

ほんの少しのコツさえわかれば説明上手になれる！「聞き手とのタイムラグを知れ」「要点を先に言え」「比喻を使え」など、最強の説明術を具体的に紹介。「「分かる」とはどういうことか」も解説する。

『河を渡って木立の中へ』

ヘミングウェイ/新潮社/933 ㌔ 文庫

第二次大戦後数年を経たヴェネツィア。アメリカ陸軍大佐キャントウェルは、貴族の娘レナータに戦争の真実を語り…。歳の離れた愛しい人、戦争の不条理、迫りくる終焉のとき。著者自身を投影して描いた、愛と死の物語。

『京都の歩き方』

澤田瞳子/新潮社/216.2 ㌔

京都には、平安や幕末のみならず、あらゆる時代の痕跡が息づいている。京都で生まれ育った直木賞作家が、季節の便りや日常のニュースの中から思いも寄らぬ「史話」を掘り起こす。『週刊新潮』連載を改題。

『関西人の正体』

井上章一/朝日新聞出版/361.4 ㌔

関西弁は議論に向かない、京都を首都だと言い切る京都人、“阪神原理主義”の真実…。典型的な関西に対する偏見の数々を、ときに茶化し、ときにまじめに打ち壊す、独創的面白関西論。「55 年ぶりの万国博」を増補。

『^{まじない} 呪 の脳科学』

中野信子/講談社/491.3 ㌔

なぜ、こんなに周りの言葉に苦しむのか。言葉は「呪」となり、人間の行動パターン、人間関係や仕事、人生の幸不幸、社会の空気さえ大きく変えてしまう力がある。脳科学を中心とした知見をもとに、言葉の力的一端を繙く。

『もっと知りたい国宝』

土屋貴裕/東京美術/709.1 ㌔

日ごろから国宝に親しんでいる 5 人の学芸員が、厳選した 130 点強の作品を紹介。どこを見ると作品のすごさが分かるのか、なぜそれが国宝なのかに重点を置き、分野横断的に解説する。

『AI に書けない文章を書く』

前田安正/筑摩書房/816 ㌔

曖昧なことばを文にするとはいどういうことなのか。その文を文章に組み立てるとはいどういうことなのか。AI がものを書く時代だからこそ、文章に向き合うことの意味を考える。文章を書くテクニックも伝える。

『ブレイクショットの軌跡』

逢坂冬馬/早川書房/F71

自動車期間工の本田昴は、2 年 11 カ月の寮生活を終えようとしていた。最終日、同僚が SUV ブレイクショットのボルトをひとつ車体の内部に落とすのを目撃する。見過ごせば明日からは自由の身だが…。

『ファラオ』

馬場匡浩/筑摩書房/242 ㌔

古代エジプトの最高権力者、ファラオの実像とは。最新の考古学的知見に基づき、エジプト文明の起源から王権・神性の背景、ファラオの果たすべき使命、さらにはミイラの作り方やピラミッドの目的までを幅広く紹介し、謎に迫る。

『えらくならずにお金がほしい』

トイアンナ/大和書房/366 ㌔

うまくいかない後輩との関係、理不尽な上司、そして「できない私」の愛し方…。数千人のキャリア相談から見えてきた、賢い働き方・付き合い方などを紹介する。「はたらく」を楽にする自己分析 99 の質問も収録する。

『手間なしおかず』

上島亜紀/ナツメ社/596 ㌔

材料は最小限、調味料は基本的なものを中心に使い、調理器具、調理工程も少ないのにおいしい！お財布にやさしいけれど、毎日食べても飽きず、洗い物や片付けがラクチンになる調理のコツや工夫が満載のレシピを紹介する。

『やなせたかし』

平凡社/726.1 ㌔ 雑誌コーナー

漫画家、絵本作家、詩人、デザイナー、編集者、放送作家、シンガーソングライター、演出家…。八面六臂のメルヘンの巨匠・やなせたかし。その人生と仕事をビジュアルで紹介する。やなせたかしアシスタント座談会等も収録。

『本と子どもが教えてくれたこと』

中川李枝子/平凡社/910.26 ㌔

子どもはいつでも全力投球。お話の主人公になれるほど、とびっきり個性的！保育士経験から「ぐりとぐら」「いやいやえん」を生み出した児童文学作家・中川李枝子が、本と子どもとの出会いを語る自伝。

『問題。』

早見和真/朝日新聞出版/F87

小学 6 年生の十和は、家族の幸せの形が分からない。ここから逃げ出したい。十和は祖母が一人暮らす大阪の私立中学に進む決意をし…。中学受験を通して家族の成長を描く長編小説。『小説トリッパー』連載を単行本化。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。

また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

※メールアドレスを変更された場合はご自身でホームページより変更手続きをお願いします。



スマホ用ホームページ